

令和2年度 網場の設置事業の結果報告について

[環境政策課]

1. 昨年度の取組内容

令和元年12月中旬の5日間、5か所（がめ川、宮地川、広田用水、浄土川、千俵用水）で網場の試験設置を行った結果、回収したごみの総重量は37kg（草木類が約30kg、ペットボトルを含むプラスチックごみ類は約5kg）であり、一定のごみ流出抑制効果が認められた。

2. 今年度の取組内容

令和2年8月3日（月）から9月25日（金）の約2か月間、昨年度の調査でごみの回収量の多かった「がめ川」、「広田用水」、「千俵用水」の3か所で網場の設置を行った。

箇所	地内	管理主体
がめ川	城川原地内	市河川課
広田用水	千成町地内	広田用水土地改良区
千俵用水	上千俵町地内	常西用水土地改良区

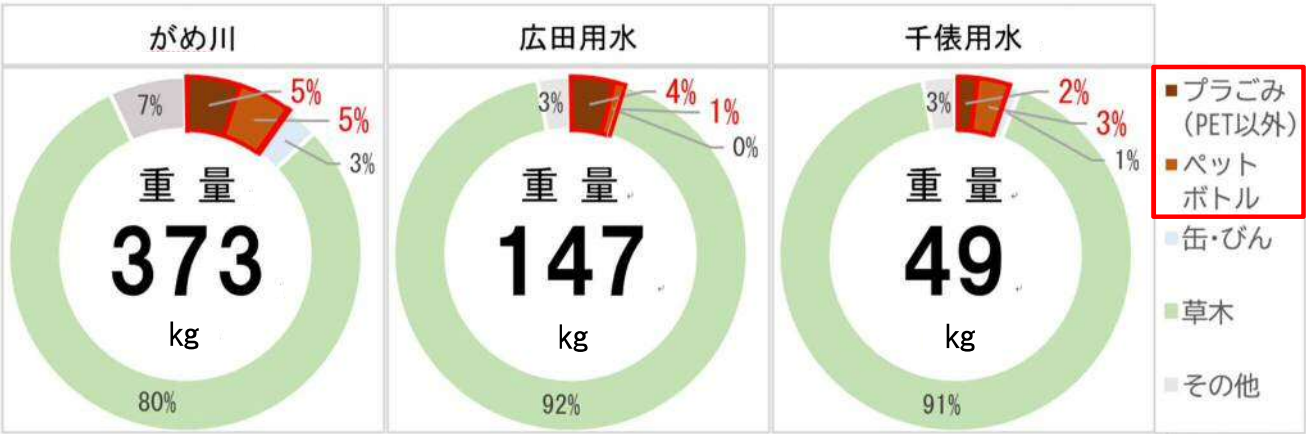
3. ごみの回収

今年度の網場設置に伴うごみの回収については、「広田用水」及び「千俵用水」は週1回、ごみの回収量が比較的多い「がめ川」は、網の破損や臭いの発生防止等を考慮し、週3回の回収を行った。

4. ごみの回収結果

（1）重量等

ごみの回収量は、最もごみが多く回収された「がめ川」で373kg、3か所合計では、総重量569kgとなった。プラスチックごみの割合は、「がめ川」（約10%）、「広田用水」及び「千俵用水」（約5%）となり、交通量の多い国道8号に近く、市街地を流れている「がめ川」において、ごみの重量及びプラスチックごみの割合が多い結果となった。





【「がめ川」 8/31 回収分(3 日分、約 26 kg)】



【プラスチックごみ】

(2) 昨年度との変更点

昨年度は、護岸と網の隙間からごみがすり抜けていくが多かったため、今年度、新たに網を二重に設置する方法への変更や、網の両側にすり抜け防止用フェンスを設置した結果、回収したごみの量の増加につながった。



【ごみの回収（がめ川）】



【すり抜け防止用フェンス】

(3) 天候との関係

降水量とごみの回収量との関連を分析したところ、晴天が数日間続いた後で雨が降り、水量が急激に増えた場合に、網にかかるごみが増加する傾向が見られた。これは、晴天時に溜まっていた側溝などのごみが、降り始めた雨によって増水した川の流れに乗り、下流に流れてきたものと推察される。

5. 今後の展開等

来年度は、網場の設置やごみ回収に関する維持管理マニュアルを整備していくとともに、センサーネットワークを活用した水位計を導入し、3か所で半年間、網場の設置を予定している。

また、網の素材や形状などの改良について、専門業者と協議を重ねるとともに、効率的な回収方法や維持管理費の縮減等、今後の網場の常設設置や横展開も視野に事業手法を検討していきたい。